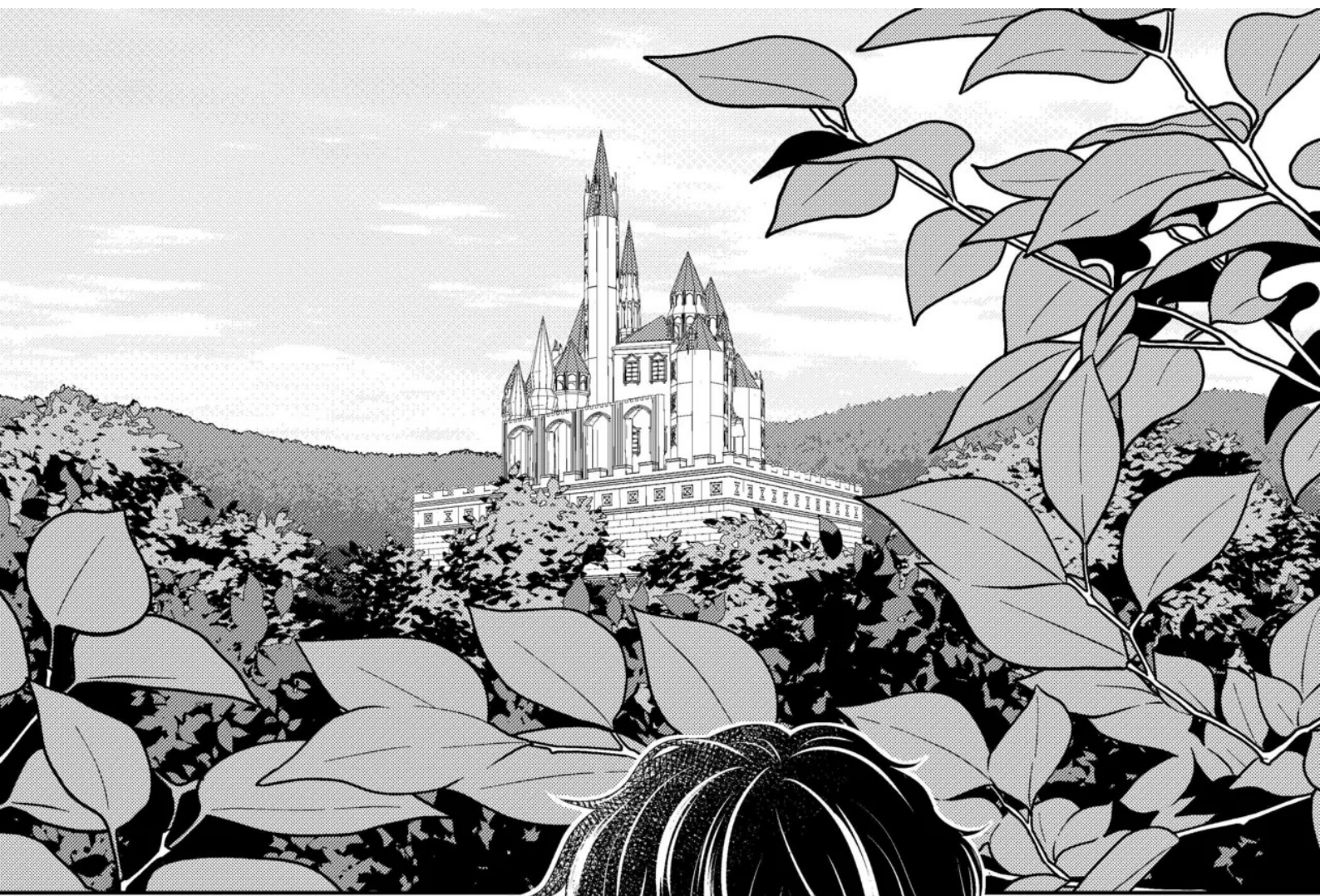


騎士と触手と







森に住む
薬師に…ですか？

そうだ



森の奥に
住んでる
薬師だ

変わり者で
森からめったに
出てこないが
腕は確かだ

その薬師にしか
調合できない
薬があるとのことだ
この手紙を薬師に
渡して薬をもらって
きてほしい

国王からの
極秘の命令だ

極秘…

封緘印の
魔法…

…先もいったとおり
これは国王直々の
極秘の命令だ

選出の
理由は？

動く人間は
少ないほうがいい

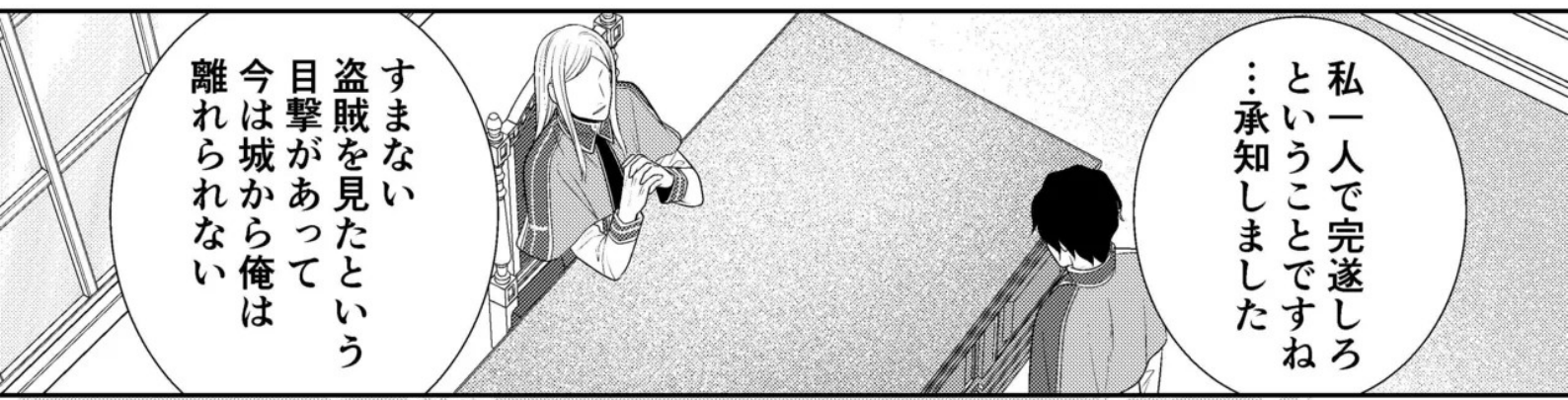


王国騎士団で
随一の剣技の
持ち主である
君しかないと思
ってる

副団長の
君にしか
頼めない事案だ



そんな仕事を
任せられるのは



私一人で完遂しろ
ということですね
：承知しました

すまない
盗賊を見たという
目撃があつて
今は城から俺は
離れられない



ちなみに森付近で
見たという情報だ
可能であれば調査も
してほしいかな？

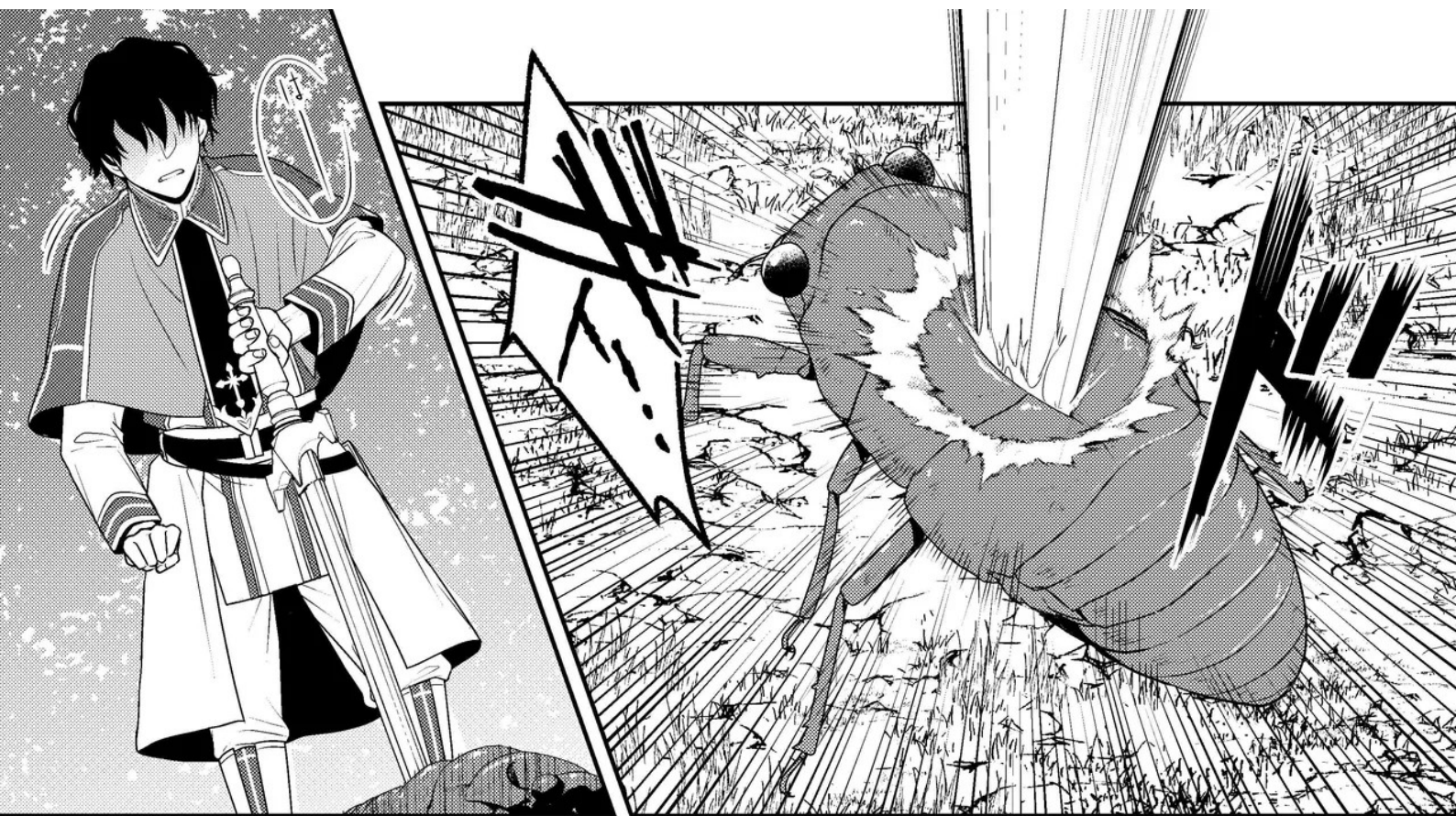
ついでに

その情報は
先に言って
くれませんか
団長…？

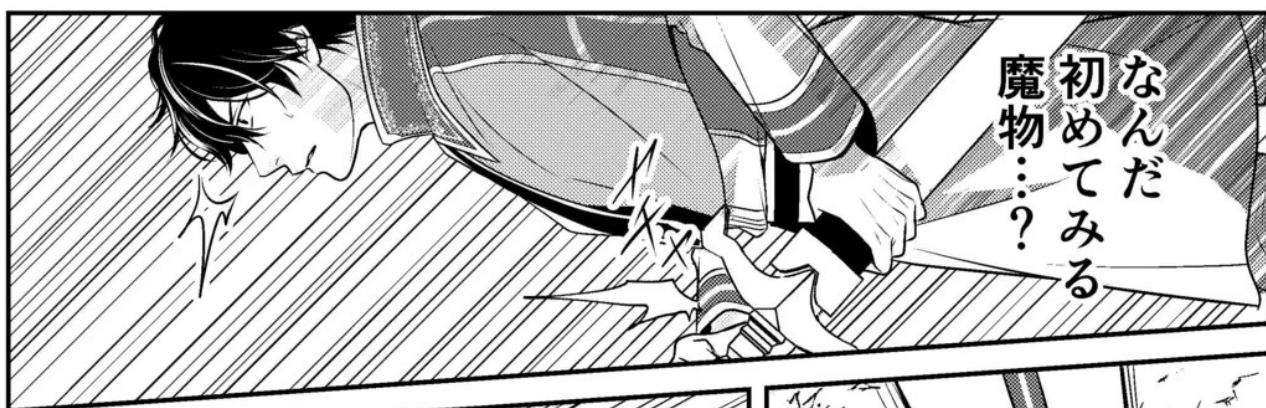
森には魔物も
てるんですが

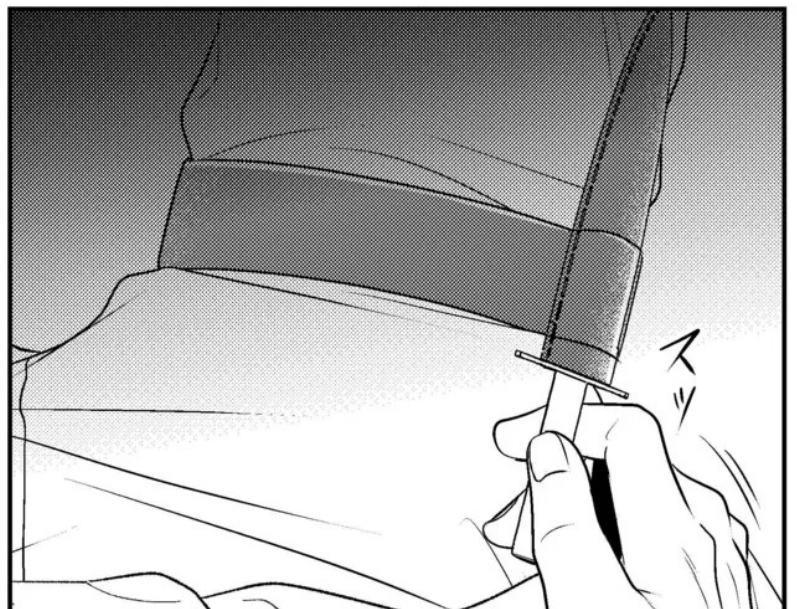
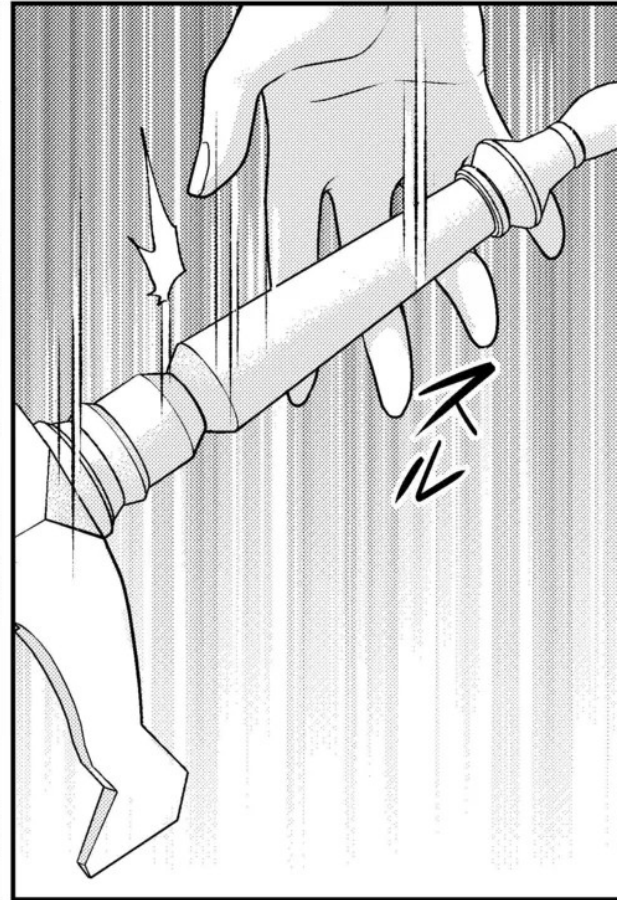














スル

なっ

スル

ズル

ズル

ズル

外せない!

スル

くうっ

スル

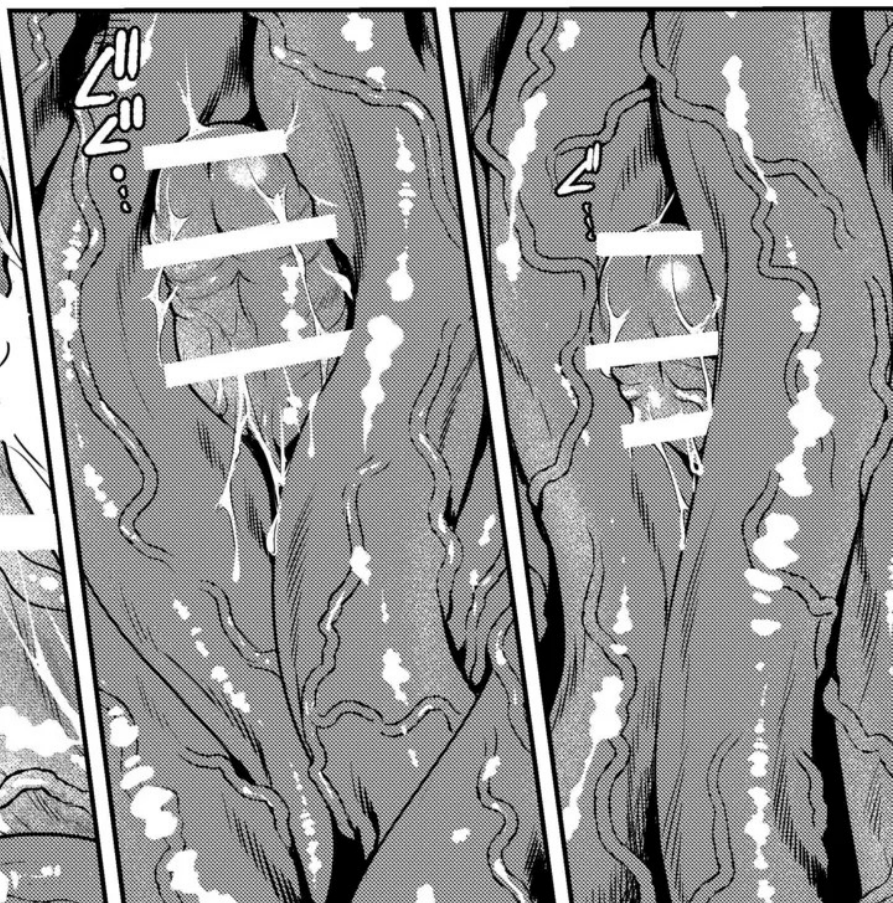
ズル

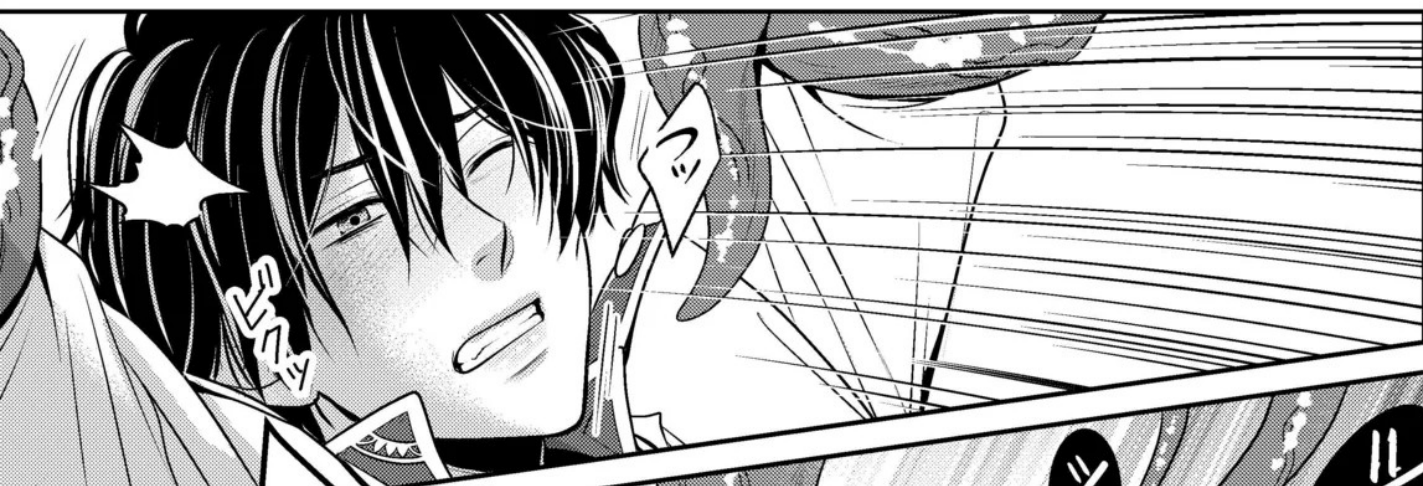
ズル

ズル











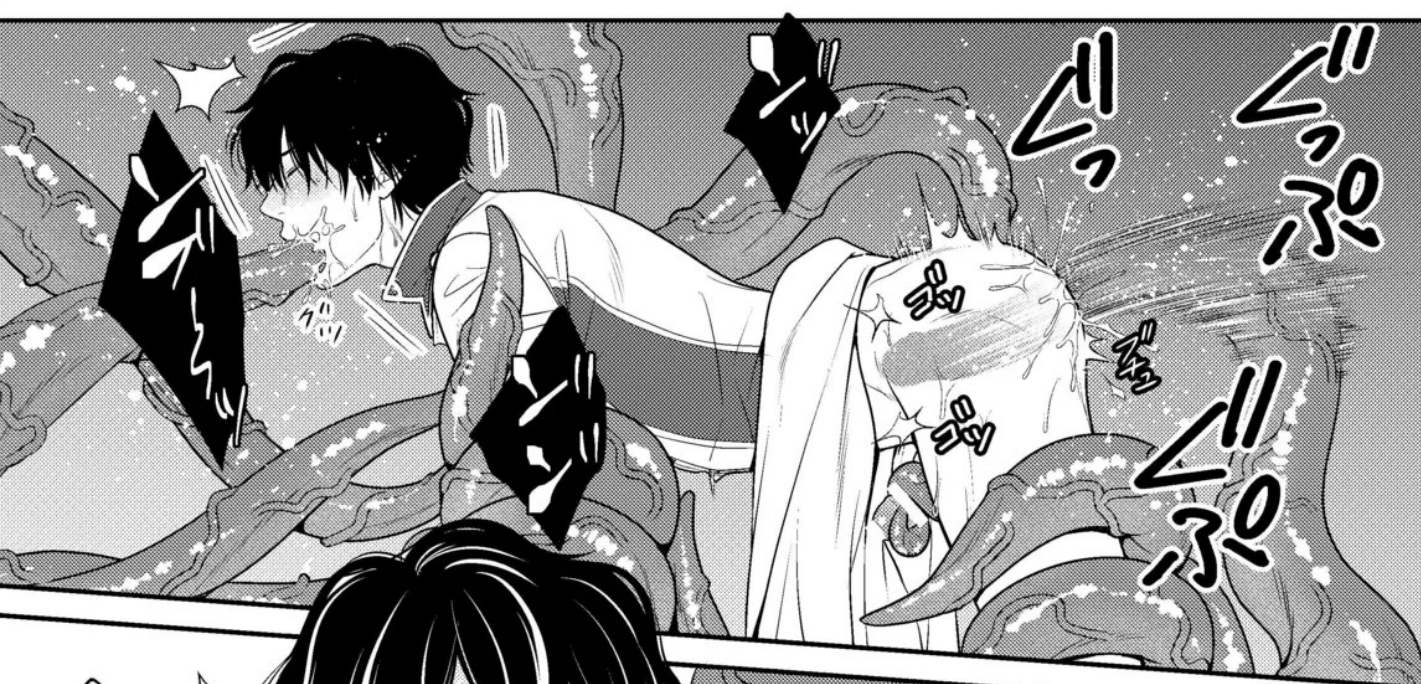


身体が
触手に触れられた
場所が：

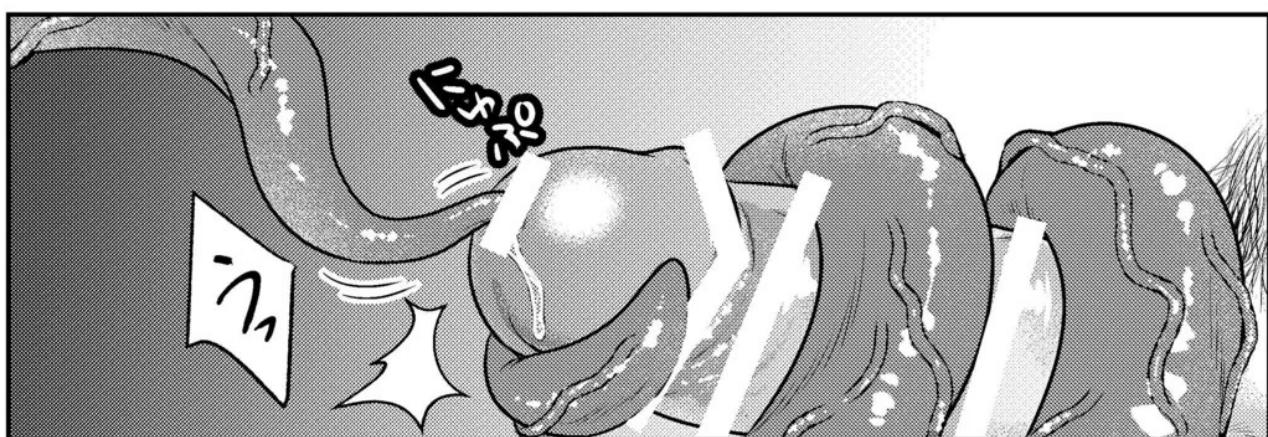
熱く疼く

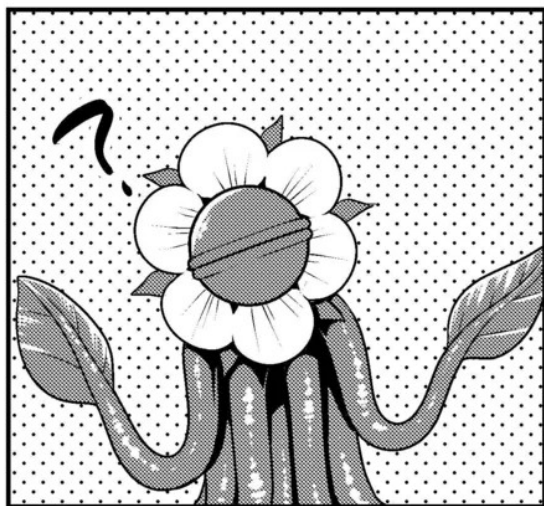
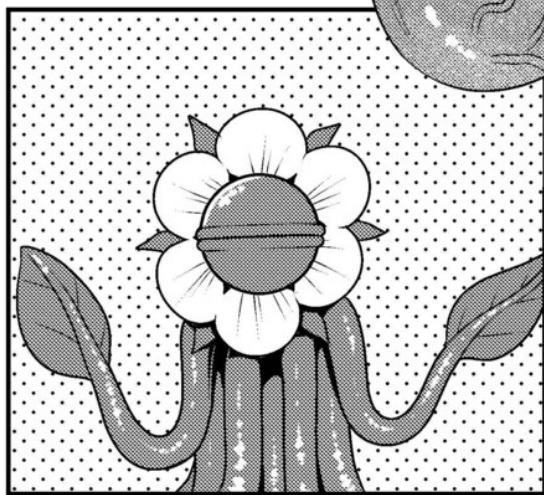
あゝ

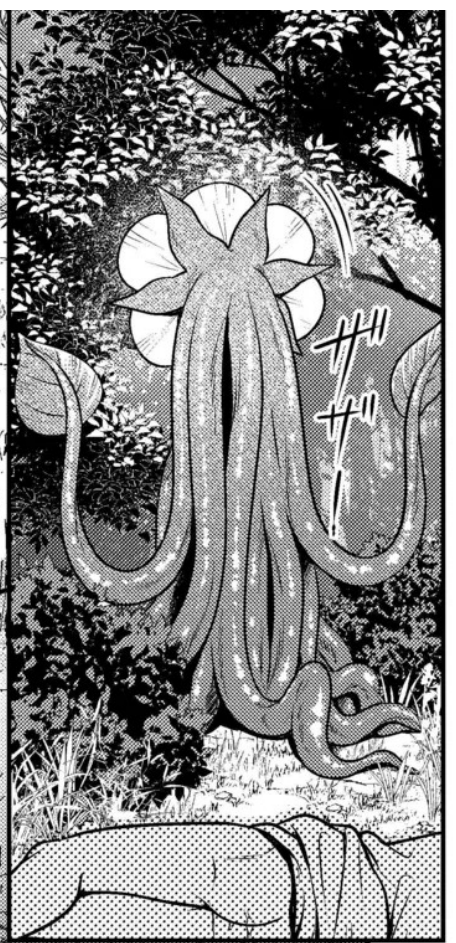
うん

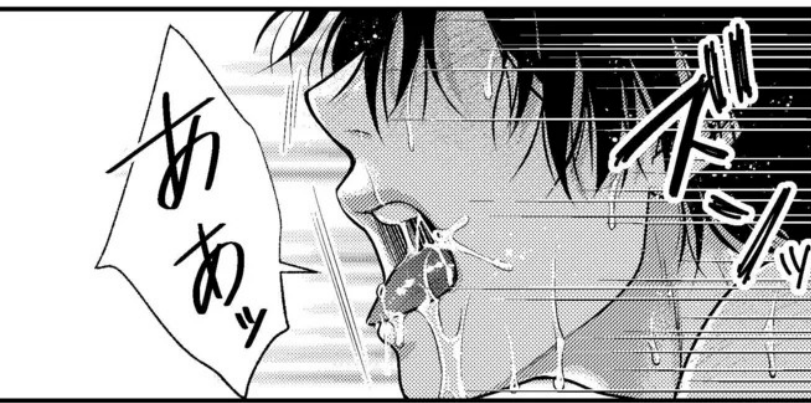
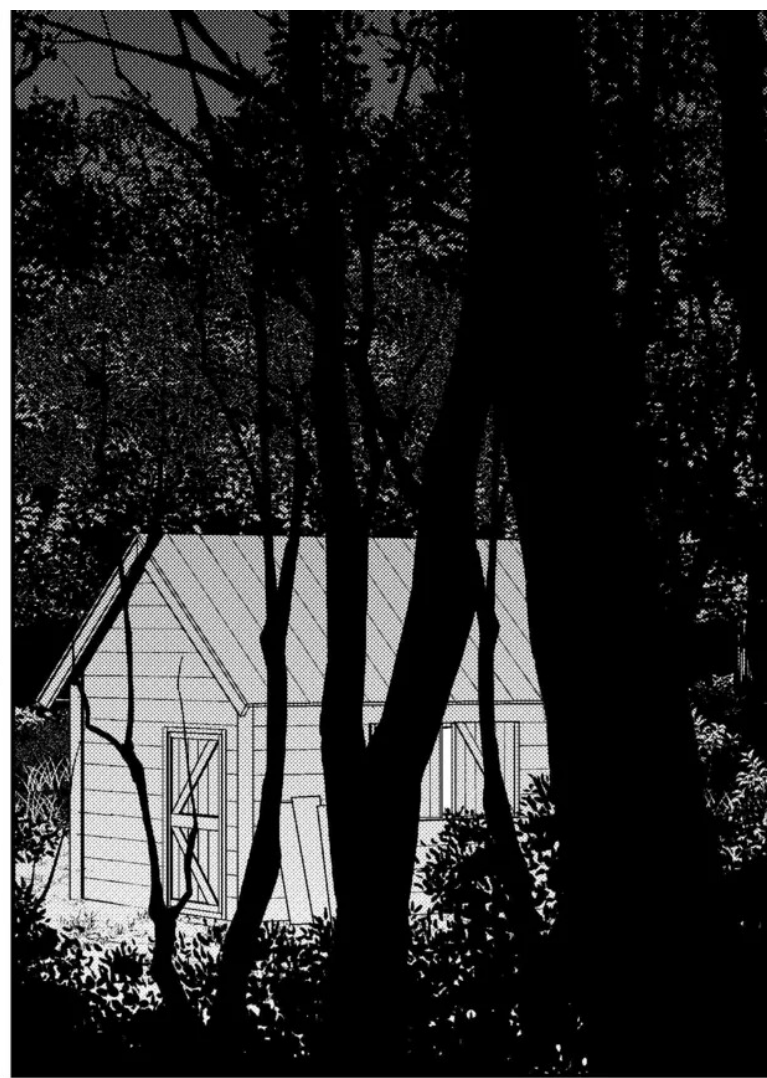














酩酊状態で
自分がナニされてっか
分かってねえだろ
これ



どこもかしこも
敏感になって



中也熱く
とろけて
最高だ！









ぐるぐると
熱が煙のように
出口を探して身体中を
這いまわってる

[illegible]

出したい

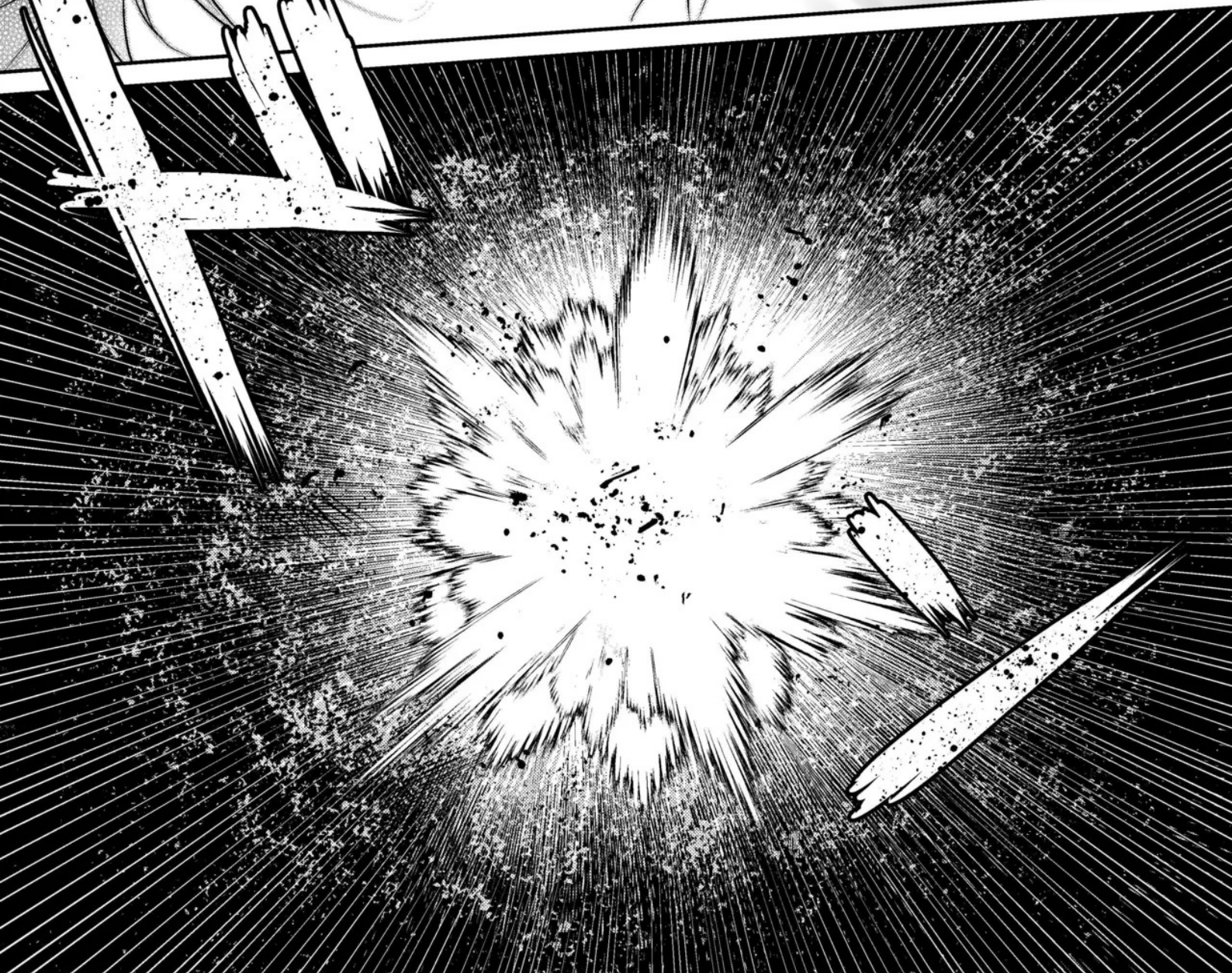
バン

ドッ

シュー

パッ

この熱を外に!









この石は
魔力量で色が
変わる特殊な
鉱石

あんたは
魔力がないの
逆だよ

そんな鉱石が
え？
では…



石が…
光ってる



稀にいるんだ
魔力量が多いのに
放出ができない
魔法が使えない
人

イメージと
しては…
放出する穴が
欠陥してる

なにかが…
きっかけになって
魔力が暴発
したんだろう
まあ
これで魔法を普通に
使えるかもな



封緘書は
無事だったよ

タイミング
良かった！

昨日の夜が
満月で
ちょうど材料の
種が採れたし



魔法が…

あ！

森にいる花の魔物が
年に一度
満月の光を浴びて
種ができるから
貴重な素材なんだよね

ペラ

花の魔物…

うっ
頭が…

魔物と言っても
粘液に特殊な成分が
あるくらいの
普段はおとなしい
やつなんだ

ペラ

ただ種が
できる前になると
栄養をとるために
魔力が高い魔物や
動物を襲ったり
するけど—

ペラ

そんな魔物の種で
調合すると
効果の高い
媚薬ができる

採れるのは
この時期だけ
超貴重！
男女兼用で、お使い
頂けます

—そつつ



パパ〜ン♪

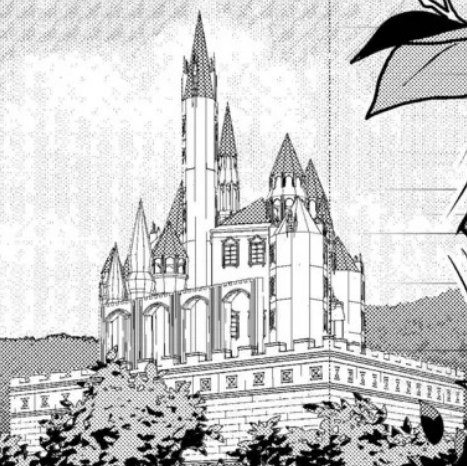
その話
私が聞いて
よかった
のか…？
極秘の案件では…



…等しく
人間も動物も
植物も子孫を
残すために並々
ならぬ努力と進化を

今聞いた話を
忘れる薬作ってくれ

急激に浮上する
国王のED疑惑



その後、森の爆発原因を探るため
森に入る騎士団の図↓

結局
森に入ること
になったな…

ザッ

ザッ



